

# 2027年3月期第1四半期 決算説明会

昭和産業株式会社

証券コード 2004

2026.8.19

本日はご多忙の中、昭和産業グループ決算説明会にご出席賜り、誠にありがとうございます。

## Agenda

- 01** 2027年3月期第1四半期 業績概要
- 02** 中期経営計画26-29の進捗
- 03** 参考資料

私、白井からはこちらのアジェンダに沿いまして、第1四半期の業績概要及び中期経営計画26-29、こちら第1四半期時点の進捗についてのご報告をさせていただきたいと思います。それでは進めさせていただきます。

## 01 2027年3月期第1四半期 業績概要

2027年3月期第1四半期 業績概要でございます。

## 2027年3月期第1四半期 業績のポイント

■売上高 **923億円**(前期比+9.1%)

営業利益 **34億円**(前期比▲1.5%)

■ポイント①:

売上高は、販売数量は前年並みも、原料価格上昇に伴う  
販売価格改定の効果により増収

■ポイント②:

営業利益は、大型の設備投資による減価償却費の増加および  
中東情勢悪化による包装資材費の増加により若干の減益

Copyright©2026 SHOWA SANGYO Co., Ltd All Rights Reserved.

4

売上高は923億円、前年同期と比較しまして約9%の増収となりました。増収の要因は主に2点ございます。

1点目は、食品・飼料両セグメントとも販売価格改定の効果によりまして、増収になったこと。

2点目は、子会社2社の決算期変更によりまして、当該2社につきましては6ヶ月の実績を反映していること。

これら2つの要因により増収となっております。

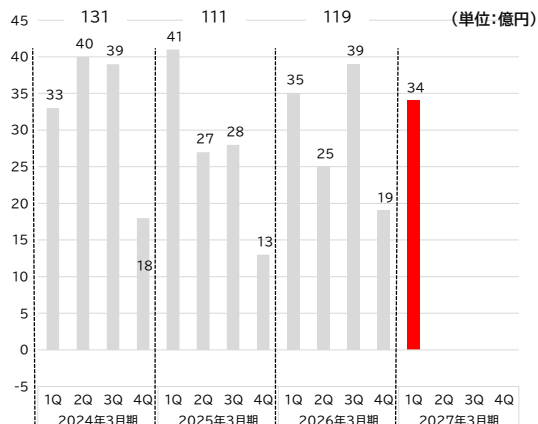
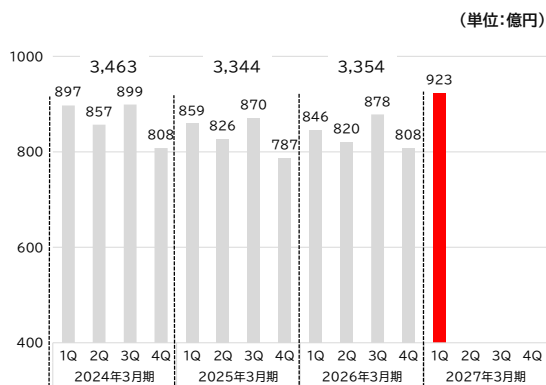
# 2027年3月期第1四半期 業績ハイライト

売上高

923億円

営業利益

34億円



Copyright©2026 SHOWA SANGYO Co., Ltd All Rights Reserved.

5

営業利益の実績は34億円、前年同期と比較いたしましてマイナス1%、若干の減益となっております。こちら主な要因といたしましては、前期終盤に設備工事が完了し稼働を開始した大型設備2件ございますが、こちらの減価償却費の負担増、及び中東情勢悪化等による資材費及び包材費の増加、これらの原価増加分をカバーしきれず、残念ながら若干の減益となりました。

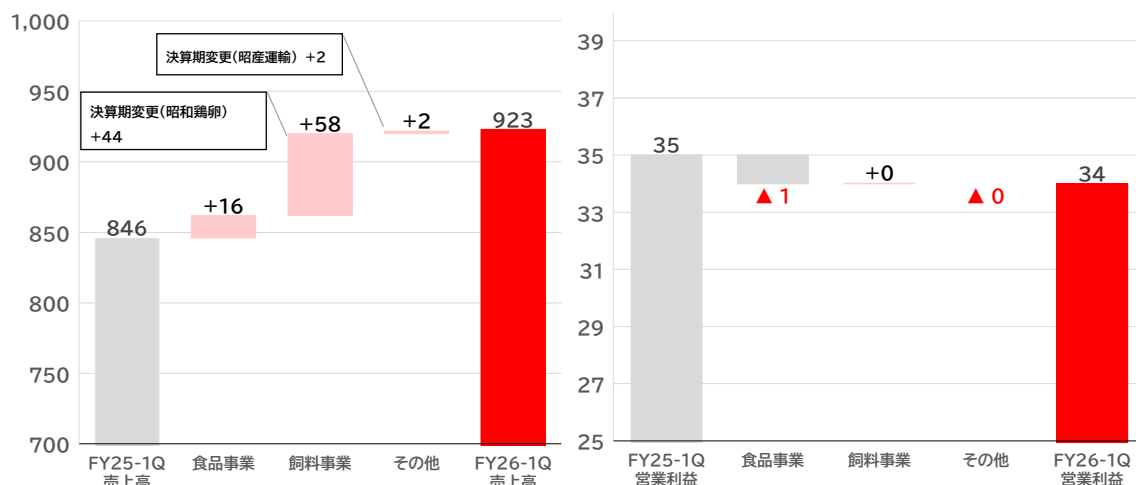
## 2027年3月期第1四半期 業績ハイライト

売上高 923億円

(単位:億円)

営業利益 34億円

(単位:億円)



Copyright©2026 SHOWA SANGYO Co., Ltd All Rights Reserved.

6

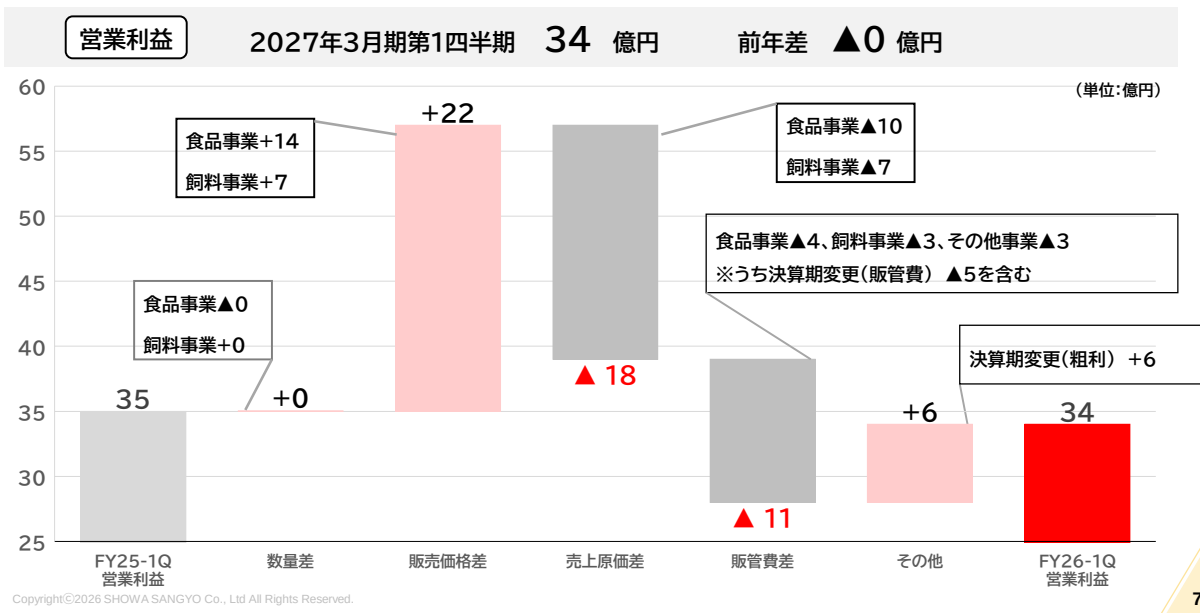
こちらは過去3年間の四半期ごとの売上高と営業利益の推移となります。当第1四半期の売上高には先ほどご説明した通り、子会社の決算期変更による増収分も含まれていることもありまして、過去3年間の各四半期と比較しても高い水準となっております。営業利益につきましては、先ほどご説明した大型設備の稼働による償却負担増及び中東情勢の影響による原価の増加はありましたが、一定の水準を維持しております。

こちらのスライド、左側に売上高、右側に営業利益、それぞれ前期実績と比較して事業別の増減の状況がどうだったかということをグラフ化したものでございます。

売上高は食品事業が販売価格の改定効果により増収、飼料事業は子会社の決算期変更が大きく影響しております。

営業利益につきましては、先ほどご説明したコストアップ要因があったものの、第1四半期は各事業ともほぼ前期並み、あるいは若干の減益という結果となっております。

## 2027年3月期第1四半期 営業利益の増減要因



こちらは営業利益実績34億円につきまして、前期からの利益の変動要因を示したものでございます。左側からご説明いたします。

販売数量差による損益影響: 全セグメントを合わせますと、ほぼ影響がございませんでした。

販売価格差: プラスの22億円。食品事業、飼料事業とも価格改定を進めた結果、損益良化に働いております。

売上原価差: マイナス18億円。食品事業、飼料事業ともに原料価格の上昇が損益にはマイナスに働き、食品事業に関してはそれに加えて償却費の増加、資材費の増加もあり、こちらも損益を押し下げる要因となっております。

なお、先ほど申し上げています償却費の増加の具体的な内容でございますが、神戸工場の製粉立体自動倉庫及び鹿島工場のバイオマス発電ボイラ、これら2つの大型設備の稼働によりまして、第1四半期だけで前年と比較しまして2億円強の減価償却費が増加をしてございます。

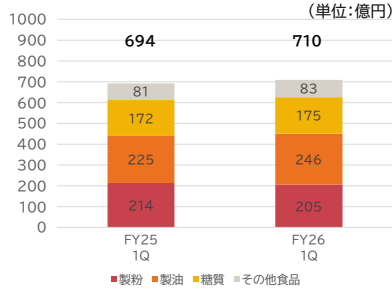
もう一つ、中東情勢の影響によりまして資材費の増加でございますが、5月以降取引先より価格改定の要請がありそれを受諾したことによりまして、第1四半期におきましては約1億円のコストアップという状況でございます。

販管費差はマイナスの11億円。こちら販管費の科目別で見ますと、人件費と物流費の増加による影響となります。各事業別の影響額は資料に記載のとおりでございます。なお、子会社の決算期変更による影響を販管費差マイナス5億円、その他プラス6億円として表示をさせていただいております。

## 2027年3月期第1四半期 セグメント別売上高・営業利益

## 食品事業 売上高

|         |       |
|---------|-------|
| FY26-1Q | 710億円 |
| 前年同期差   | 16億円  |
| 増減率     | 2.4%  |



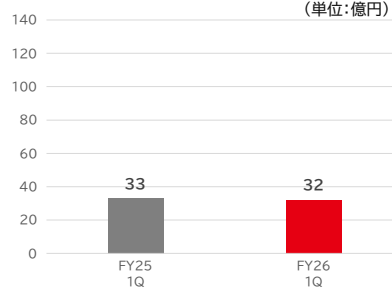
| 売上高           | FY25 1Q    | FY26 1Q    | 前年同期差     | 増減率         |
|---------------|------------|------------|-----------|-------------|
| 製粉            | 214        | 205        | ▲9        | ▲4.4%       |
| 製油            | 225        | 246        | 20        | 9.3%        |
| 糖質            | 172        | 175        | 3         | 1.9%        |
| その他食品         | 81         | 83         | 2         | 2.5%        |
| <b>食品事業合計</b> | <b>694</b> | <b>710</b> | <b>16</b> | <b>2.4%</b> |

## 【食品事業内のカテゴリ変更を実施】

※焼成パン:製粉カテゴリ⇒その他食品カテゴリ  
 ※冷凍食品:製油カテゴリ⇒その他食品カテゴリ

## 食品事業 営業利益

|         |       |
|---------|-------|
| FY26-1Q | 32億円  |
| 前年同期差   | ▲1億円  |
| 増減率     | ▲3.0% |



| 営業利益 | FY25 1Q | FY26 1Q | 前年同期差 | 増減率   |
|------|---------|---------|-------|-------|
| 食品事業 | 33      | 32      | ▲1    | ▲3.0% |

Copyright©2026 SHOWA SANGYO Co., Ltd All Rights Reserved.

8

食品事業の売上高・営業利益の実績値を表現しているスライドです。

食品事業内のカテゴリ区分を一部変更しています。焼成パンを製粉カテゴリからその他食品カテゴリへ、冷凍食品を製油カテゴリからその他食品カテゴリへ変更しました。前年同期の数値も、比較可能性を確保するため、変更後の区分に組み替えて表示しています。

カテゴリ別の売上高の前期差では、製粉がマイナス9億円、製油がプラス20億円となっておりますが、これらはいずれも主に販売価格改定によるものでございます。

なお、カテゴリごとの前期からの損益増減要因につきましては、資料23ページに記載をしておりますので、後ほど確認いただければと存じます。

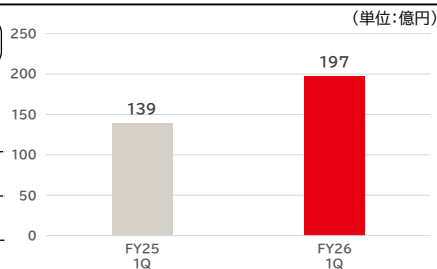
## 2027年3月期第1四半期 セグメント別売上高・営業利益

## 飼料事業 売上高

FY26-1Q 197億円

前年差 58億円

増減率 41.9%



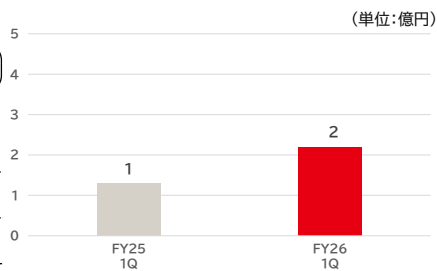
| 売上高  | FY25<br>1Q | FY26<br>1Q | 前年差 | 増減率   |
|------|------------|------------|-----|-------|
| 飼料事業 | 139        | 197        | 58  | 41.9% |

## 飼料事業 営業利益

FY26-1Q 2.2億円

前年差 0.9億円

増減率 64.8%



| 営業利益 | FY25<br>1Q | FY26<br>1Q | 前年差 | 増減率   |
|------|------------|------------|-----|-------|
| 飼料事業 | 1          | 2          | 1   | 64.8% |

Copyright©2026 SHOWA SANGYO Co., Ltd All Rights Reserved.

次に、こちらは飼料事業の売上高、営業利益の実績値となります。

詳細の説明は割愛させていただきます。

連結貸借対照表

| (単位:億円)            |         |         |     |
|--------------------|---------|---------|-----|
| 項目                 | 2026.3末 | 2026.6末 | 増減  |
| 資産合計               | 2,749   | 2,792   | 43  |
| 流動資産               | 1,150   | 1,167   | 16  |
| 固定資産               | 1,599   | 1,625   | 26  |
| 負債合計               | 1,223   | 1,239   | 15  |
| 有利子負債<br>(リース債務含む) | 510     | 543     | 33  |
| その他負債              | 713     | 695     | ▲17 |
| 純資産合計              | 1,526   | 1,553   | 27  |

- <主な要因>
- 資産の部
    - (+)棚卸資産の増加
    - (+)投資有価証券の増加
  - 負債の部
    - (+)有利子負債の増加
    - (-)未払法人税等の減少
  - 純資産の部
    - (+)当期純利益の計上
    - (+)その他有価証券差額金の増加
    - (-)配当金の支払い

続きまして、連結貸借対照表および前期からの主な増減要因となります。

こちらも資料のとおりでございます。説明は割愛させていただきます。

## 原価に与えるコスト要素

## ■コスト環境【原料・為替・エネルギー】

|                | 2026年3月期 |        |          |        | 2027年3月期 | 2027年3月期 |
|----------------|----------|--------|----------|--------|----------|----------|
|                | 4-6月実績   | 7-9月実績 | 10-12月実績 | 1-3月実績 | 4-6月実績   | 前提       |
| 小麦 円/t ※1      | 66,610   | 63,570 | 63,570   | 61,010 | 61,010   | 61,840   |
| 大豆 ¢/Bu ※2     | 1,024    | 1,036  | 1,020    | 1,083  | 1,155    | 1,062    |
| 菜種 C\$/MT ※3   | 634      | 703    | 632      | 625    | 703      | 682      |
| トウモロコシ ¢/Bu ※4 | 471      | 428    | 406      | 434    | 445      | 450      |
| 海上運賃 us\$/t ※5 | 45.8     | 51.6   | 57.3     | 52.4   | 67.2     | 50.0     |
| 為替 円/us\$ ※6   | 148.40   | 145.38 | 149.07   | 155.99 | 157.84   | 157.00   |
| LNG 円/kg ※7    | 91.5     | 85.7   | 82.9     | 85.9   | 87.3     | 80.2     |

※1:該当期間3か月前の5銘柄平均価格 ※2:該当期間の2か月前のシカゴ相場平均 ※3:該当期間の2か月前のICE相場平均  
※4:該当期間の2か月前のシカゴ相場平均 ※5:米国ガルフ-ジャパンのパナマックス船(トウモロコシベース) ※6:該当期間の2か月前のTTM平均  
※7:該当期間の2か月前の「財務省貿易統計」月間の実績速報値より、本国の輸入品価額・数量から平均単価を算出

こちらは2026年3月期第1四半期以降、四半期ごとの穀物相場等の推移を一覧表にしたものでございます。

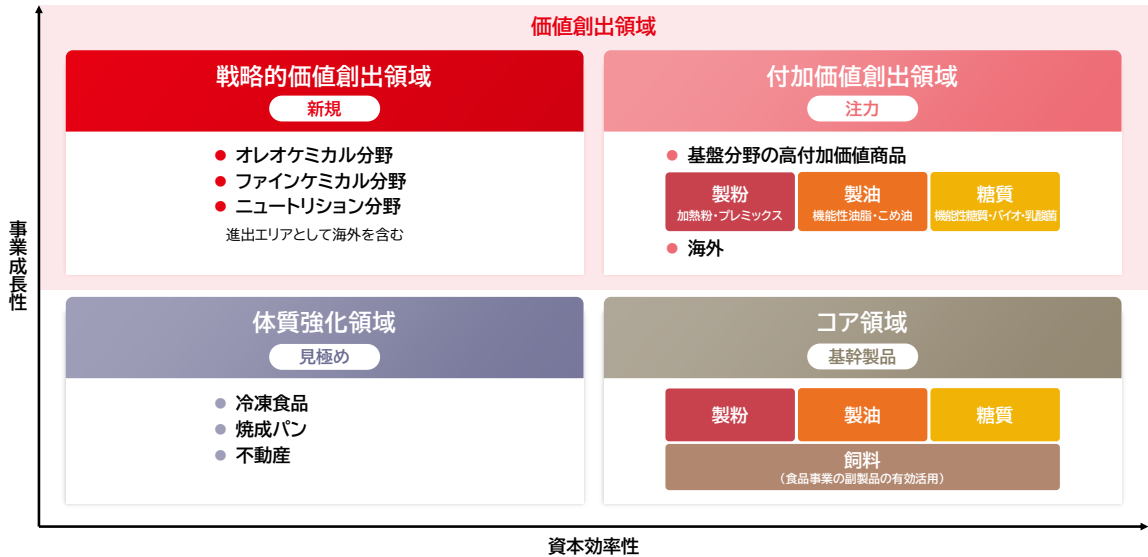
原料概況につきましては、後ほど岩永よりご説明させていただきます。

以上で第1四半期の決算概要の報告とさせていただきます。

## 02 中期経営計画26-29の進捗

引き続きまして、中期経営計画26－29の進捗報告としまして、各事業領域におけます  
当第1四半期におけるトピックスをご報告させていただきます。

## 事業ポートフォリオマネジメント



Copyright©2026 SHOWA SANGYO Co., Ltd All Rights Reserved.

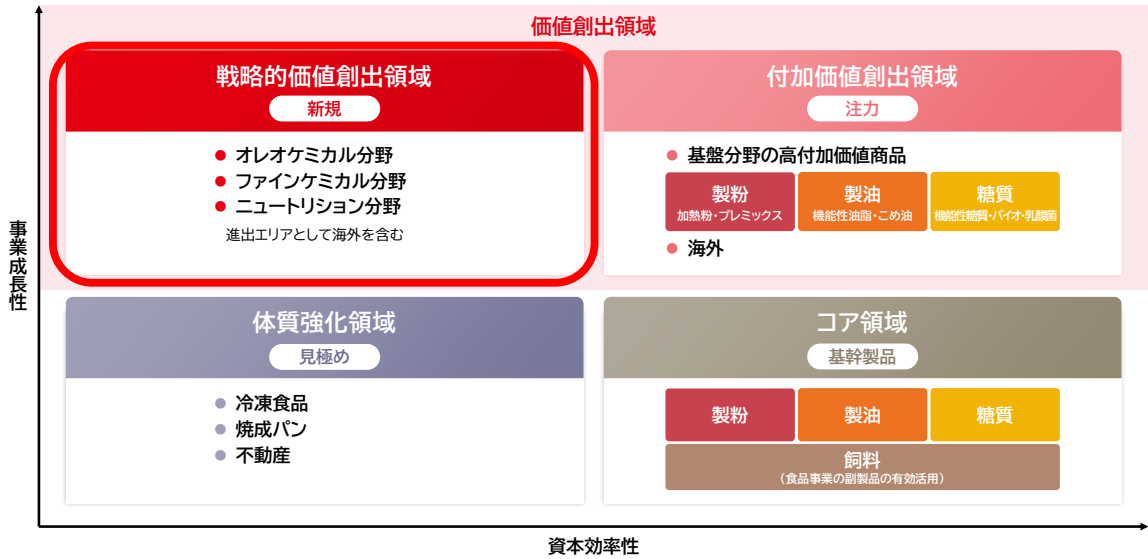
13

こちらは長期ビジョンのご説明資料として公表しております、当社の事業ポートフォリオの図となります。

当社は長期ビジョン「SHOWA VISION 2035」の実現に向けて、収益体質の強化を掲げて、基盤分野における高付加価値商品へのシフトやコスト削減により、事業基盤の強化に取り組むとともに、成長戦略の実現に向け、海外への展開や新規分野といった成長分野への取り組みを一層拡大してまいります。

収益体質の強化に向けてお示した4つの各事業領域ごとに、現在取り組んでおります内容をベースにしまして、当第1四半期におけるトピックスについて順にご説明させていただきます。

## 事業ポートフォリオマネジメント



Copyright©2026 SHOWA SANGYO Co., Ltd All Rights Reserved.

14

まずは図の左上、当社として新たに挑戦していく分野と位置づけておりますニュートリション、オレオケミカル、ファインケミカル等、戦略的価値創出領域に関する当四半期におけるトピックスでございます。

## 戦略的価値創出領域の進捗

### □オレオケミカル分野における新たな取り組み

- 山形空港における日本航空作業車両の一部にて  
こめ油由来のバイオディーゼル燃料を使用する実証を開始。
- 副産物を再生可能エネルギーへアップサイクル

世界初

| 山形空港日本航空株式会社<br>環境実績                                                                                    | 山形空港日本航空株式会社<br>環境実績                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 燃料消費量の削減</li> <li>・ CO2排出量の削減</li> <li>・ エネルギー効率の向上</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境負荷低減の取り組み</li> <li>・ 環境負荷低減の取り組み</li> <li>・ 環境負荷低減の取り組み</li> </ul> |
| 環境負荷低減の取り組み<br>CO2削減率<br>2023年度<br>2024年度<br>2025年度                                                     | 環境負荷低減の取り組み<br>CO2削減率<br>2023年度<br>2024年度<br>2025年度                                                           |



こめ糠脂肪酸からバイオディーゼル燃料へのアップサイクル



トーイングトラクター

Copyright©2026 SHOWA SANGYO Co., Ltd All Rights Reserved.

15

こちら、オレオケミカル分野における取り組みのご紹介でございます。

当社で製造販売しているこめ油、こちらの製造工程で発生いたしますこめ糠脂肪酸より製造したバイオディーゼル燃料、これを山形空港にて日本航空の作業用車両に使用する実証を、2026年5月より開始しております。

山形空港は当社と業務提携し、このバイオディーゼル燃料の技術を開発した東北大学発のスタートアップ企業からも近く、季節ごとに大きな寒暖差が生まれやすい盆地に位置しているため、さまざまな気象条件下による実証を行うことができます。

バイオ燃料の需要は世界的に年々高まっております。

バイオ燃料の安定的な原料調達のために、廃油以外の新たな資源の可能性を探り、原料の選択肢を増やしていくことが重要であると考え、当社では実証の経過を見ながら、この再生可能エネルギーへのアップサイクルの事業化に向けて各種検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

## 事業ポートフォリオマネジメント



Copyright©2026 SHOWA SANGYO Co., Ltd All Rights Reserved.

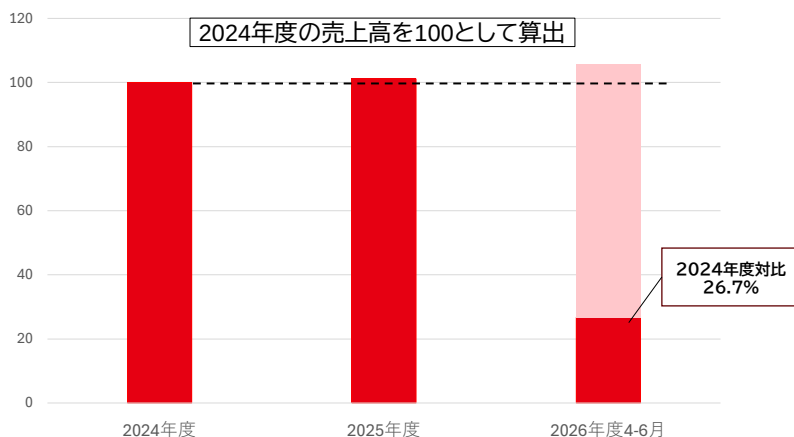
16

続きまして、図の右上、基盤分野である製粉、製油、糖質、飼料、各事業の高付加価値商品に関する取り組みについてです。

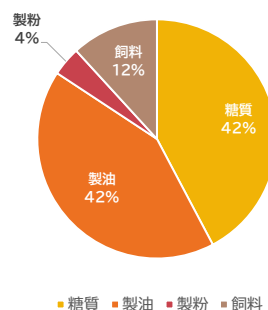
## 付加価値創出領域の進捗

### 高付加価値商品の売上高推移 ※社内で一定の基準を定め算出

- 2029年度売上高120%（2024年度比）に向けて



高付加価値商品の構成比



Copyright©2026 SHOWA SANGYO Co., Ltd All Rights Reserved.

17

当社では、基盤分野の収益体質の強化に向けて、高付加価値商品の拡販に取り組んでおります。

具体的な目標として、中計最終年度の2029年度には、高付加価値商品の売上高を2024年度比で120%とすることを掲げております。

こちらにお示した左側の棒グラフは、2024年度の売上高を100とした場合の2025年度と2026年度第1四半期の水準を比較したグラフとなります。

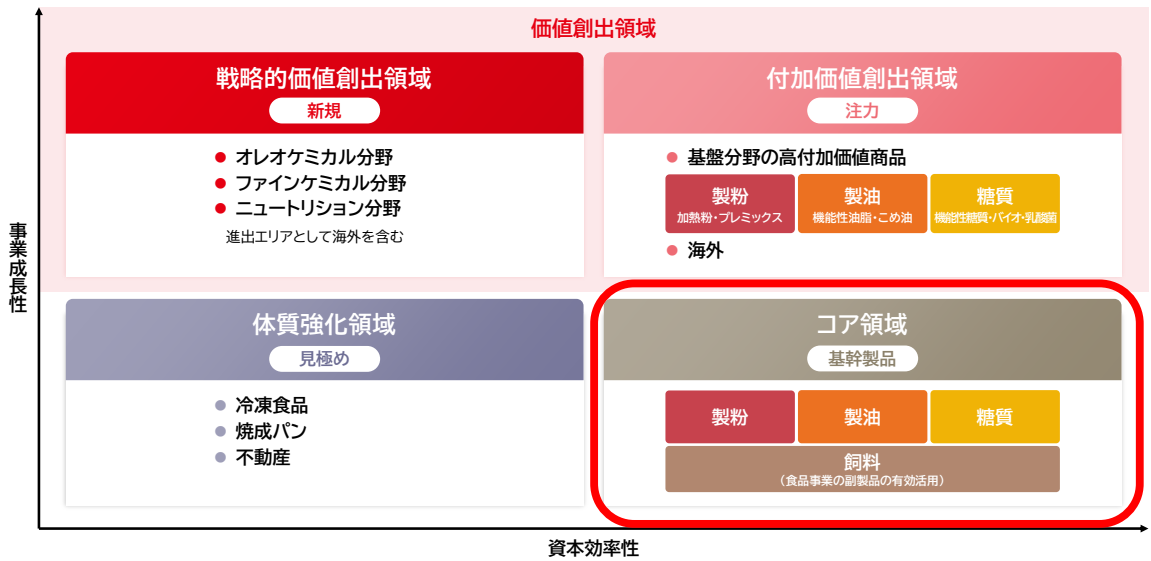
当第1四半期の高付加価値商品の売上高は、2024年度対比で26.7%。四半期時点の基準進捗率25%を上回っております。

参考までに、右側の円グラフについてもご紹介させていただきます。

こちらは、高付加価値商品に占める食品事業各カテゴリと飼料事業の構成比を示したものととなります。

構成割合としましては、糖質と製油が多く、糖質では機能性の糖質、あるいは乳酸菌、製油ではこめ油や機能性の油脂、これらが主な商品群となっております。

## 事業ポートフォリオマネジメント



Copyright©2026 SHOWA SANGYO Co., Ltd All Rights Reserved.

18

次に、図の右下、基盤分野である製粉・製油・糖質事業、各事業のコア領域でございます。

## コア領域の進捗

### コストに与える影響とその対応

#### コスト影響 原料穀物相場

- 大豆菜種相場の高止まり、円安の進行により食用油の製造コストアップ
- 輸入小麦の政府売渡価格が約2.5%引き上げ(5銘柄平均)  
※穀物相場の見通しについては後述

#### コスト影響 中東情勢

- 一部包材で値上げによるコストアップが発生
- 容器やその他資材は6月以降調達が安定

#### 対応 価格改定を実施

- 油脂製品(業務用・家庭用)
  - 4月1日納品分より 15%以上の価格引き上げ
  - 6月1日納品分より 25%以上の価格引き上げ
- 小麦製品(業務用)
  - 6月20日納品分より 1袋あたり  
75～100円の価格引き上げ

⇒安定的な利益を確保できる  
体制を堅持

Copyright©2026 SHOWA SANGYO Co., Ltd All Rights Reserved.

19

盤分野のコア領域では、安定した収益の確保、安定したキャッシュの創出に向け、コスト影響を見ながら、対応内容、各種取り組みを進めております。

原料穀物につきましては、大豆・菜種相場の高止まりおよび円安の進行により、食用油の製造コストは上昇しております。

輸入小麦につきましても、4月に政府売渡価格が5銘柄平均で2.5%引き上げられました。

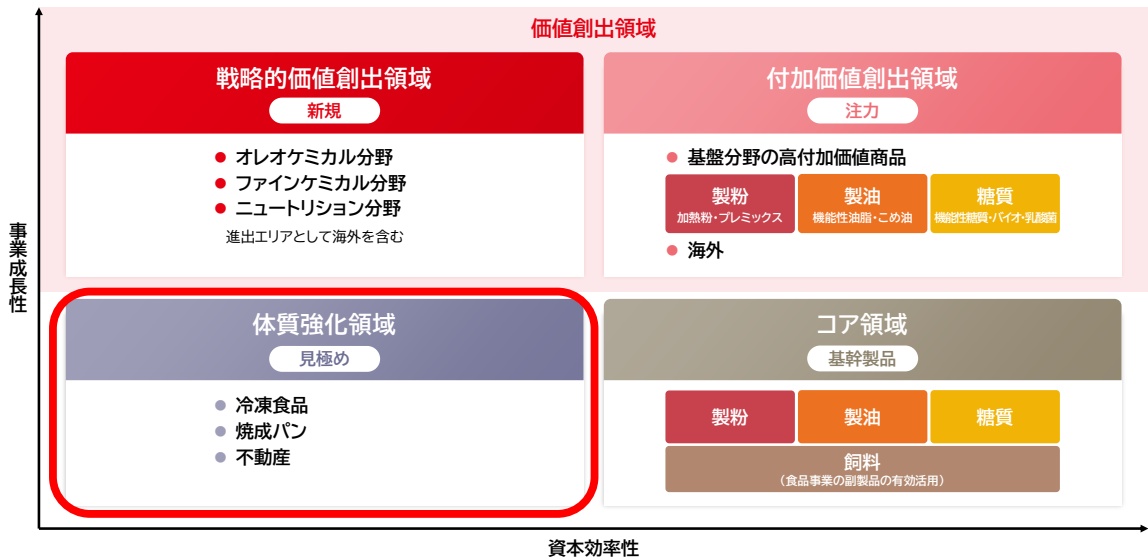
これらに加え、中東情勢の影響により一部資材・包材は値上げによるコストアップが発生しております。

このような製造コスト上昇への対応として、油脂製品と小麦製品は価格改定を実施してまいりました。

この先も引き続き、安定的な利益を確保する体制を堅持してまいります。

当期は大型設備導入直後のため、年間の減価償却費が前期比で約19億円上昇する見込みでございますが、通期の営業利益目標120億円の達成に向け、コア事業での安定した利益確保に加えまして、先にご紹介した高付加価値商品の拡販、こちらを進めてまいる所存でございます。

## 事業ポートフォリオマネジメント



Copyright©2026 SHOWA SANGYO Co., Ltd All Rights Reserved.

20

最後に、図の左下、既存事業のうち冷凍食品、焼成パン、不動産事業についてでございます。

各事業とも従来と同様、当第1四半期でも一定の利益は確保しておりますが、先ほどご紹介しました基盤の各事業に比べまして、事業規模は大きいものとは言えません。

これらにつきまして、第1四半期時点においてご報告するべきトピックスはございませんが、この先、最適な資源配分を通じて企業価値の最大化を図っていく上で、これらの事業を今後どのように展開していくかにつきまして、当中計期間中に検討を進めてまいります所存でございます。



#### 見通しに関する注意事項

- 本資料は、現時点で入手可能な情報や、合理的と判断した一定の前提に基づいて策定した数値であり、潜在的なリスクや不確実性などを含んでいることから、その達成や将来の業績を保証するものではありません。
- また実際の業績等も本資料における見通し、計画等とは大きく異なる結果となる可能性がありますので、本資料のみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さい。
- なお、将来における情報・事象およびそれらに起因する結果にかかわらず、昭和産業グループは当経営計画を見直すとは限らず、またその義務を負うものではありません。

以上で私からの説明を終了させていただきます。ありがとうございました。